

令和7年度 山形県立小国高等学校 学校評価書（自己評価・学校関係者評価）

校 訓	「自律・忍耐・向上」
メインテーマ	「挑戦、ともに！」
学校教育目標	1 郷土に誇りと愛着を持ち、学び続けながら、よりよい地域づくりに主体的に関わる人材を育成する。 2 健康で豊かな人間性を持ち、新たな価値創造に挑む人材を育成する。 3 多様性や個性を認め、他者を尊重しながら協働できる人材を育成する。
学校経営方針	小規模高校のよさを生かし「生徒一人一人が輝き、笑顔と感動を地域と分かち合う学校」づくりを実現する。 *** 育成したい資質・能力 ***（学校教育目標の実現のために） 1 主体性 「自己理解・自己肯定感・学ぶ意欲・計画力・意思ある選択・創造的市民性」 2 挑戦心 「情報収集活用力・課題設定力・共感力・思考力・創造力・行動力・やり抜く力・伝える力・振り返り力」 3 協働力 「受容力・対話力・共創力・持続可能性意識・グローバル意識」

達成度 A:達成できた B:ほぼ達成できた C:やや不十分である D:不十分である

重点目標	重点目標の達成度	重点取組	重点取組に対する具体的方策	重点取組の達成度（中間）	重点取組の中間進捗状況	重点取組の達成度（年度末）	重点取組の達成度（年度末）の評価の根拠：年度末に実現された生徒や学校の姿 等
1 体系的充実と なび学及び 協働的な学びの 推進		○本校の特色である「白い森未来探究学」や「教科等横断的な学習」、「国際教育」の実践・深化により、本校生に育みたい資質・能力を伸ばす。	○「白い森未来探究学」において、授業設計や振り返り等の授業のブラッシュアップを強め、全教員の共通認識と授業準備により、毎回の授業の充実度を高めていく。 ○「教科等横断的な学び」において、プロジェクトチームのリーダーシップのもと教科横断授業の実践・深化を続け、育みたい資質・能力がどう伸びているのか、どう関係していくのかを測っていく。 ○国際教育の実践を推進する。				
		○AI学習システム活用を含め、ICTを活用した個に応じた指導、学習の個性化、協働的な学びの充実を図り、「確かな学力」を育む。	○スタディサブリを用いた効果的な学習の仕方の提案と習慣化を図る。 ○「個別最適な学び」と「協働的な学び」の授業研究・実践を推進する。 ○1学年における「LEAFシステム」の操作習得と、活用機会の拡大を図る。				
		○地域や企業・大学等と連携したキャリア教育や体験的教育活動の推進により、キャリア意識を醸成する。	○白い森学習支援センターと連携し、模試や講座への参加を推進し進路意識を高める。 ○外部の方との交流等の充実と、自ら外へ出て活動する機会の推進を図る。 ○学年と連携し、生徒及び保護者に進路情報等を提供する。				
		○個々の進路希望の実現のために、意欲的・計画的に学習に向かう態度を涵養する。	○シラバスの充実と活用を進め、見通しを持った学習につなげる。 ○スタディサブリ「到達度テスト」の実施と、事前・事後課題の有効な活用を定着させる。 ○担任面談・三者面談を計画的に行い、メタ認知と学習意識の向上を図る。 ○四年制大学希望者向け講習会において、目的と学習目標を明確化する。				
		○図書館等の活用や NIE実践により高い教養と豊かな心を醸成する。	○朝学習や授業を通して本や新聞の活用を広げ、図書館の利用を推進する。 ○校内読書感想文コンクール、読書会等の読書活動推進のための取組を推進する。				
2 資生質・一人 能力を育む 生徒進路 支援の充 実、社会的		○あいさつの動作や基本的生活習慣の確立に向けた援助・助言により、自律した社会人としての基礎固めを行う。	○教職員から積極的に声かけ、あいさつの模範を示すとともに、授業や日常においては、相手に配慮した言葉遣いや態度を意識させる。 ○保健室来室時には、来室カードや問診を基に生活習慣について一緒に振り返り、改善点を見つけ、具体的な解決策を考え、行動できるよう支援する。 ○検診結果や来室状況を踏まえた保健指導を実施する。				
		○異なる立場や考え、価値観を理解し互いに活き活きと学校生活を送れるような取組を工夫して行い、自己及び他者を個性的な存在として尊重していく心を育てる。	○傾聴力を高める取組（ファシリテーション、ワークショップ、グループ討議等）を通して、相手の話を丁寧に聴く力を高め、自分の意見を大切にしながら相手の気持ちに配慮した伝え方（アサーティブコミュニケーション）を学び、相互理解を促す。 ○他校の生徒や地域の方々との交流を貴重な機会ととらえ、多様な世代や異なる背景を持つ相手との交流を深めることで、互いの個性を尊重し、支え合える関係を築く。 ○特別な支援が必要である生徒も含め、生徒の個の状況に応じた適切な支援ができるよう、職員研修の機会を設け、チーム体制を維持する。				
		○学校行事やボランティア活動等への主体的な取り組みを奨励し、生徒一人一人の自己有用感を高める。	○生徒からのアイデアを積極的に取り入れた行事の企画・運営を推進し、生徒一人一人の得意や興味関心に合わせて役割を任せ、責任を持って取り組むことを促す。 ○ボランティアの活動内容や意義について丁寧に説明するとともに、地域と連携して生徒が参加しやすいボランティア活動の機会を増やす。				
		○継続的にいじめ防止対策を徹底することで、いじめのない学校を目指す。	○学年を超えて交流する生徒会主催「いじめグループ討議」において、偏見・差別等をテーマにした身近な事例について生徒同士で対話を行うことで、相手の立場になって考え、多様性を尊重する心を育む。 ○年2回のいじめ・学校生活アンケートも活用しながら、生徒の些細な変化や気になる言動について教職員間で情報共有を密に行う。				
		○社会とのつながりを生かし、地域との協力した放課後活動の充実・継続を行う。	○年2回課外活動調査を実施し、生徒のニーズを拾いあげ、地域と連携して新たな活動につなげるとともに、生徒が充実した放課後を過ごせるよう、適宜面談を行い、キャリアや将来の進路のために充実した過ごし方ができるよう支援する。				
3 安全・学校 づくり 信頼		○「地域とともにある学校」としてのコミュニティ・スクール運営やPTA活動を実施し、学校・家庭・地域が一体となった活動を工夫して行う。	○朝のあいさつ運動の時間等を変更し、より多くの生徒と挨拶を交わせるようにする。 ○専門部の活動を計画的に行う。 ○さくら連絡網を活用してPTA活動の様子を会員に伝える。 ○各委員や地域とのより一層の連携を図り、学校運営協議会の熟議等による意見を教育活動に活かす。				
		○特色ある教育活動や生徒の活躍の姿について発信方法を工夫し、学校の魅力を校内外に積極的に伝える。	○学校HPとSNSの在り方を検討し、より効果的な広報活動に努める。 ○PTA会報「よこね」を発行し、PTA会員同士の情報共有を図る。 ○CNと連携して、アスモや中学校の掲示板をとおして本校生の取組を紹介する。				
		○危機管理体制の維持及び施設設備の安全管理により事故防止に努める。	○防災訓練を年3回実施し、非常時の連絡体制・避難と人員確認・炊き出しなどについて総合的に学ぶことで、防災意識を高める。 ○危機管理マニュアルの改定を行い、教員が非常時の行動について理解する。 ○月1回の安全点検による改善箇所把握・修繕により、安心・安全な環境作りに努める。 ○個人情報等の情報管理の徹底を図るとともに、情報モラル教育に努める。				
4 指導力 向上 教職員の 協働体制 の維持と		○各種研修を通し、「伴走者」としての教師の力量向上を図る。	○授業アンケート・授業評価・生徒の学習成果等により、指導と評価の一体化を図り、指導力の向上につなげる。 ○定期的に「白い森人」研修、特別支援教育研修、公開授業等を行うことで、資質の向上並びに職員の目標の一致を図る。 ○面談時だけでなく普段から研修に対する助言を行うとともに教育センター等の研修について声掛けを行う。				
		○業務改善を図り、ライフ・ワーク・バランスの向上に努める。	○業務の効率化・削減・統合・整理について随時見直しを図り、業務量の適正化を図る。 ○IoTの効果的活用を促進する。				
		○同僚性を高め、休暇が取得しやすい風通しのよい職場環境づくりを推進する。	○職員間のコミュニケーションの促進により、仕事の分業化（集中化を防ぐ）を図るとともに、相互にフォローし合える職場環境を作る。 ○定時退校や休暇取得をしやすい雰囲気を作る。				
		○教職員一人一人が働き方改革に対する意識を持ち、実行する。	○勤務時間を確実に掌握することで、職員それぞれにあった業務遂行に対する助言を行う。 ○職員が自分の勤務時間を認識できるように、出退勤時間の日常的な教務への入力を促す。 ○業務の効率化を図ることによって、生徒と向き合うためのより多くの時間の確保を促す。 ○年間における時間外在校等時間の月平均が45時間を超える教員数0人を目指す。				